

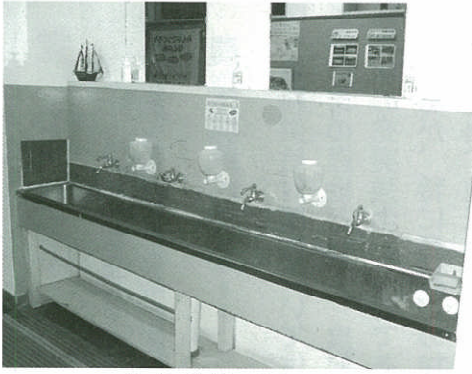
広瀬 寛人

(無所属)

全国学力・学習調査結果活用

問 本年度3回目の調査結果をどの様な分析活用に結びつけているか。

答 課題解決に対して、先生方が情報を共有する。様々な角度から児童生徒の学習状況を把握する。学力調査と学習状況調査との関連性を検証し、指導のあり方や生活指導の改善を検討する。学ぶ意欲を高める授業の工夫改善を図る。早寝、早起き、朝ご飯を摂る習慣を身につける。読書に親しむ環境づくりに工夫



市内学校手洗い場

する。計画的な予習・復習に取り組む。

その結果からどの教科も昨年の平均正答率を上回っている。全国の平均正答率との差も縮まってきている。小学校では全道の平均正答率を上回っているが、活用に関する問題について全国より低い状況になっているため授業の工夫に努める。

小中学校の保健衛生環境

問 インフルエンザ対策を含むうがい・手洗い・歯磨き等の環境整備は。

答 手洗いやうがいの励行、更にアルコール消毒液を各クラスに配置して対策を講じているが給食後の歯磨き推進については現在市内の各学校で行っていないが、口腔衛生上は虫歯予防や口臭予防等重要と考えるので、今後各学校の手洗い場の蛇口等の環境等の確認を含め協議していく。

問 食育の視点から給食時間の実態把握はされているか。

答 市内大規模中学校につきまして、給食時間の拡大について食育教育の視点から検討する。

宮田 均

(無所属)

協会病院跡地、マルシェ構想

問 ふらのまちづくり株式会社が行うこの計画と当初の基本計画との違い、市民周知、市民意見の聴取について。地代、その他整備の考えについて。市は開発の保証人になるのか。



フラノ・マルシェ工事始まる

答 まちづくり会社が事業者であり、基本計画の変化、公共施設などの変化は、各メディアを通して行う。初期投資の軽減支援を図る目的で、地代は当初約3億円、現在、約2億5千万の土地を月々17万円で賃貸する。

本来は月々約44万円である。開発の保証は会社取締役の個人保証と伺っている。

緑の基本計画による緑化推進

問 「ある面では街中に緑が少ないですネ」とおっしゃる方がいます。市民参加型の独自性を訴える植栽方法、良好な樹木、樹材の保全、計画目標などの進捗状況と今後の取り組みは。

答 都市公園目標値は92・7haに対し、45・1haに留まっている。「都市計画マスタープラン」「緑の基本計画」を見直し、課題を整理し、公園緑地の整備推進と緑地の保全に取り組む。

緑町児童保育センター

問 定員20名に対し入所者61名である。狭隘であり、安心、安全に問題がある。

答 旧旭川地方事務局富良野出張所跡地を平成22年取得し、平成23年開設できるよう協議を進めている。狭隘緩和策として、居住地近くの児童保育センターへの利用をお願いする。早期新施設開設に向けた協議を進める。